

# ひまわりからの メッセージ

65号

2016.9.12

NPO ひまわりの花内  
西濃圏域  
発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

心をひとつに



夏休みがすぎ、いつの間にか秋の気配が……と、思っていたり、庭では虫の音が毎日にぎやかになり、田の畔には彼岸花が咲き始めました。季節はめぐっていくのに、ふと自分の日常をふり返ると、余裕のない日々であることに思ひ至ります。

そんな生活の中で松本までオーケストラを聴きに出かけました。今年はい小澤征爾さんが指揮をする日のチケットが取れたのです。

八十歳を昨年迎えた小澤さんは、指揮台と指揮台の傍と二脚の椅子を用意され、一楽章が終わるごとに座って休息をとられました。指揮の途中でも椅子に座ってタクトを振ることもあり、体力の衰えに客席から祈るような思いで見つめていたのは、私一人ではなかったことでしょう。若い頃のエネルギー

ツシユな指揮を思い出しながら、しかし、全身全霊でつむぎ出される音楽は、深く豊かに心を満たしてくれました。絵画とは違って音楽は私の記憶の中に長くどどまってはくれませんが、おそろくは私の感性が鈍らぎている証拠なのでしょう。けれども八十一歳の小澤さんに、まだまだあなたも頑張りなさいよと背中を押された気がしました。

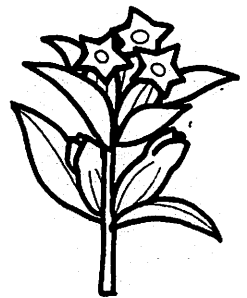
今、テレビ番組で「仰げば尊し」というドラマを放映しています。実話のドラマ化なのだそうです。荒れている高校に赴任した一人の音楽教師が、吹奏楽部を育てていく話です。かつては、金八先生が一世を風靡しましたし、金八先生に憧れて教師になったという人もいました。

生徒の心を惹きつける教師という職業は素敵だなぁと思うのですが、誰もが生徒と心を通わせることができるとは限りません。音楽を通して心を一つにしていくというドラマのよいうな展開は現実にはまれなことでしょう。でも、生徒を信じること、生徒のニミろに寄り添うことは、最も基本的な人と人の関係であらうと思います。

出会った瞬間に子どもたちの心の眼で見透かされてしまう私たちの人間性は、常に自分自身の内省によって保たれていくのではないかと、思ったりします。欠点だらけの人間なのだから、子どもたちと同じ目の高さで見ることで、きたらいいなぁと考えるのです。

# 読み書きの

## 苦手ナについて



学校にお邪魔すると、子どもたちの中に読み書きの苦手な子がいることに気づきます。計算するのが苦手だという子もいます。先生方は、そのことに気づいていらっしやっても、通常の学級の中で一体どんなことをしてあげればいいのかと悩まれていることも多いと思います。そして、お母さんたちは毎日の宿題をさせることで精一杯と言われます。そこで今回は、読み書きについて考えてみましょう。

### 文字を読む力の背景

子どもは、大体独歩ができるようになる頃には、「マンマ」「ブー」などの有意味語を話しはじめます。二歳になると二語文が話せるようになり、三語文、そして四、五歳になると接続詞なども使って、文章で表現するようになってきます。知っていることは（語い）の数も増えていきます。このような話しこぼの発達に、文字を読むことの前提です。そして、話しこぼの発達に加えて必要なものが音韻認識の発達です。

音韻認識とは、ひとつのことは（単語）がいくつの音から成り立っているのかを知ることです。日本語は、文字と音との関係は「対一」ですから、わかりやすいとも言えます。音の最小の単位はモーラ（音素）と呼ばれています。五歳位になると、子どもは、しりとりができるようになりますが、それは、モーラがわかるようになってきたからなのです。例えば、「はっぱ」のように促音も含んだことは、音節としては二つですが、モーラは三つです。長音を含む「ほう」も文節は二文節ですが、モーラ数は三つになります。

### ひらがなのつまずき

ひらがなは文字と音が「対一」なのでわかりやすいのですが、一対一関係から外れる「特殊音節」があるために、つまずきことがあります。拗音（ゃ、きゃ等）、撥音（ん）、促音、長音がそれぞれにあたります。例えば、「おちゃ」を「おちや」、「うっぱ」を「うっぱ」などと読んだり、書く時には「ぶどう」を「ぶど」と書いたりしてしまうわけです。また、文章の読みかきでは、「らは」「らを」「らへ」等で混乱をおこすこともあります。「わとは」「おと」「を」があそび文字と音との一対一関係がくずれることで起きるのです。このようなつまずきに対しては、音韻に注意を向ける

練習が必要で、例をあけておきます。

・ 絵の中で「た」のつくことばを探そう。

「か」のつくことば、「す」のつくことば等々

・ しりとりにあそび（絵をつなぐ）

・ いくつの音で成り立っているかを探す。

・ つまる音がつくことばを探し

・ のぼす音の数をあて

・ のぼす音（あ、い、う、え、お）のどの音か？

昔は五歳児でモーラあそびをしたものです。「しっほ」と

手を叩くとき促音を小さく叩いたり、「しゃん」の「しゃ」は

拗音なので手は三つ叩くなど、就学前の子どもたちに読

み書きの基礎トレーニングが遊びの中になされてきました。

カタカナのつまずき

ひらがなと似ている字は、どこが似ていて、どこがちがうの

かを探してみましよう。ななめ線の練習も必要でしょう。

また、「ツ」と「シ」や「ソ」と「ン」は、例えば「テンテン下

から」とか「テンテン下から」など口に出して言いながら

練習していくといいでしょう。

漢字について

漢字は表意文字ですから、形自体に意味をもって

います。だから、ひらがなよりも興味がもたせやすいと

も言えます。どうしても書き順やとめ、はね等に

目が行ってしまいますが、むしろ漢字の意味や面白さに

気づかせることの方が大事でしょう。象形文字の要素

の強い漢字は、絵と文字の対応を思い出します。

漢字のつまずき

漢字につまずく子に見られるのは、

・ 形の認識が苦手

・ 読み方が覚えられない

・ 集中力が続かない

・ ことばの知識が少ない などです。

大体、漢字をおぼえるのに、カードで毎日くり返し何

度も練習させるのが普通ですが、こういった苦手を

もっている子には、おそろく苦痛なだけでしよう。

漢字にはいくつかの部首から成り立っているものがた

くさんあるので、パーツのまとまりとして覚えていく方

が良いと教わりました。

二年生でおぼえ

る漢字、パーツの

一例が下です。

他にも日、夕、糸

などいくつもあり

かん字パーツ 2年生

木	イ	言	糸
きへん	にんべん	ごんべん	いとへん
舟	舟	舟	舟
ふねへん	ふねへん	ふねへん	ふねへん
くにかまえ	くにかまえ	くにかまえ	くにかまえ
どうがまえ	どうがまえ	どうがまえ	どうがまえ
もんがまえ	もんがまえ	もんがまえ	もんがまえ
のぶん	のぶん	のぶん	のぶん
おおがい	おおがい	おおがい	おおがい

ますね。

そして下のような

形態パーツと組み合わせ

わせて覚えていくとい

う方法です。

確かに「パーツ」でおぼ

えるために口で唱えて

いけば部首の名も自

然におぼえていけるで

しょう。

これは、村井敏宏

先生（小学校の先生で

言語聴覚士、特別支

援教育スパーバイサ

）が書かれた本か

ら引用したものです。

詳しくお知りになりたい方は、明治図書

から出ている「通常の学級でやさしい学び支援」というシリ

ーズをご覧になって下さい。

漢字の形がとれない子どもたち

文字は読めるし、書いてはいるけれど、形がうまくとれない子

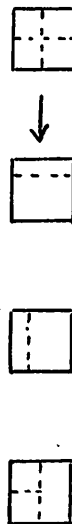
(使用例)

①練習する漢字を大きく書く  
 ②漢字全体の構成を①～⑩で選ぶ  
 ③パーツごとに分けて書いていく  
 (パーツ表に無いものは自分で命名)  
 ④パーツ名を言いながら3回練習する  
 「たつ、き、おのづくりであたらしい」

親	音	国	重	間
区	道	店	式	金

題のある子などもあるでしょう。例えば「草」が「草」にな

ったり、「休」が「休」になるなど、一つの文字として読めな



草 休 親

つまり、枠内の点線を、工夫してあげるのです。どの位

置にくさがむりを書くの、にんべんやぎょうにんべん



は、どの位置かを少しわかりやすくしてみました。もし